

# 青山学院女子短期大学

## 評価短期大学の概要

設置者 学校法人 青山学院  
理事長 松澤 建  
学 長 前之園 幸一郎  
A L O 谷本 信也  
開設年月日 昭和 25 年 4 月 1 日  
所在地 東京都渋谷区渋谷 4 - 4 - 25

## 設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
国文		200
英文	英文学	180
英文	英語学	120
家政		160
児童教育		100
教養		150
芸術		40
	合 計	950

## 専攻科および入学定員

専攻	入学定員
国文	40
英文	50
家政	40
児童教育	50
教養	30
芸術	10
	合 計 220

# 機関別評価結果

## 1. 機関別評価結果

青山学院女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

## 2. 機関別評価結果の事由

青山学院女子短期大学の設置母体である学校法人青山学院は、明治初頭、米国メソジスト監督教会の宣教師が開校した女子小学校、耕教学舎、美會神学校を源流に持ち、現在では短期大学の他、大学、大学院、専門職大学院等を有する学校法人である。当該短期大学は、女子小学校を始まりとし、専門学校を経て、昭和 25 年に青山学院女子短期大学となった。今日では、6 学科 6 専攻科の体制を整備している。

当該短期大学は、「青山学院の教育はキリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き真理を謙虚に追求し愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす人間の形成を目的とする」という「青山学院教育方針」を基盤としている。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

教育目標は「第二次青山学院将来計画委員会」のもとで将来計画が検討される中、「青山学院一貫教育検討委員会」に対し短期大学教授会から同委員会に提出する形で制定されている。

教育課程には、建学の精神・教育理念が盛り込まれており、教養教育に力を入れてきた伝統にもとづき、短期大学設置基準の大綱化以後も共通教育には多くの科目が用意されている。ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動として平成 14 年全教員を対象に教育方法の工夫に関するアンケートを実施し、平成 16 年パイロット版の「学生による授業評価」を実施した。2 年次のゼミや、学科を越えてアドバイザーを選べるシステムは、学生にとって進路に関する指導を受けるだけでなく、教員との人間的な交流を通して、短期大学生生活を有意義なものにするのに役立っている。また、臨時の調査委員会による卒業生アンケートや 6 年毎のホームカミングデーでの卒業生との交流を通して卒業後評価に取り組んで

いる。

学生支援としては、入学後に各学科の特色を生かしたオリエンテーションが実施されており、学生生活支援は主にクラス・アドバイザーとアドバイザー・グループを通して行われている。就職は大変良好な状況を保っており、専攻科、四年制大学に編入する学生も多い。

教員各個人の研究活動状況は「研究成果一覧」として公開されており、学内における研究成果の発表機会には「紀要」、「総合文化研究所年報」がある。また、指定寄付金、民間企業、民間財団からの研究助成金も導入されている。教員の研究に関わる機器、備品、図書、研究室、実験室も整備されている。

社会的活動への取り組みにおいては、公開講座が青山学院大学と連携して実施されており、意欲的な活動であると認められる。国際交流・協力への取り組みについては、特に教員において盛んで、留学も継続的に行われ、国際会議等への参加実績も豊富である。また、姉妹校との交流も継続的に行われている。

学校法人の理事会及び理事長の指導のもとに、教授会があらゆる事項を審議し議決しており、寄附行為に定める重要事項は学校法人の常務理事会、常務委員会、評議員会そして理事会で最終意思決定がなされている。学長は教育活動全般について適切なリーダーシップを発揮している。教授会が円滑に執り行われるために各種委員会がもたれ、教授会への議案が十分に準備されている。

予算は適切な手順をとり作成されており、財務体質は健全である。また、施設設備の管理も適切に行われている。

自己点検・評価に関しては、平成6年、14年、17年と継続的に自己点検・評価報告書が作成されている。

### 3. 優れている点及び向上・充実のための課題

#### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 教育の内容

- ・ 教養教育を教育全体のベースと考え、それぞれの教員が真摯に受け止め教育改善に取り組んでいる。
- ・ 学科レベルで、教え方に関する自発的なアイデア・シェアリングを行ったり、学生の動機付けを向上させるために、科目選択の自由度を上げる努力をしている。

評価領域 学生支援

- ・ 奨学金の種類が豊富で、学生生活支援に貢献している。青山学院女子短期大学国際奨学金の制度は、実績もあり有意義なものと認められる。

- ・ シオン寮の果たしている役割は、単に学生生活支援に留まらず、教育効果の上にも大きなものがある。
- ・ アドバイザー・グループ制度によって、教員全体が協力して学生支援を行う体制が整えられている。

#### 評価領域 研究

- ・ 科学研究費補助金が毎年数多く採択されている。

#### 評価領域 社会的活動

- ・ 教員の海外留学、海外出張、国際会議出席が盛んに行われている点は、短期大学としてきわめて優れたレベルにあると認められる。

### (2) 向上・充実のための課題

#### 評価領域 教育の内容

- ・ 講義内容に加えて、授業計画を明示したシラバスを作成する必要がある。
- ・ 授業評価の教員実施率を上げ、それを取りこんで学生の要望を汲んだ授業改善に取り組んでいただきたい。

#### 評価領域 教育の実施体制

- ・ 2300名の学生に対して140台のコンピュータの台数は、情報化時代の今日の社会情勢から見て少ないと言わざるを得ない。平成16年度に開講された情報関連科目32授業のうち13が抽選になった現状を見ても改善する必要があると認められる。

#### 評価領域 学生支援

- ・ 就職相談にあたって個々の学生に的確に対応できる環境整備が望まれる。
- ・ バリアフリーの観点から、障害者の配慮や安全性について改善を求めたい。

#### 評価領域 社会的活動

- ・ 学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動の実績が十分ではない。建学の精神に鑑みても、地域活動・貢献等についての企画・参加を積極的に行う等、学生への一層の啓蒙、促進がなされることが望ましい。

#### 評価領域 財務

- ・ 英文学科(英語学専攻)における定員超過を是正されたい。

評価領域 改革・改善

- ・ 青山学院は幼稚園から大学まで擁する伝統ある総合学園であるがゆえに、短期大学としてのあるべき姿、将来構想を単体として取らえる視点が法人全体に埋没してしまう点が懸念される。今後は伝統ある短期大学としてその特色と理念をより明確に打ち出して運営されることを強く望むものである。

**(3) 早急に改善を要すると判断される事項**

なし